

市民工学科・専攻の近況報告

令和4年度 専攻長・学科長
織田澤 利守

市民工学専攻・市民工学科の運営ならびに学生教育に多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大が一定の落ち着きを見せていることを受け、今年度は4月から対面授業が再開されるなど、大学も徐々に平常を取り戻しつつあります。9月には工学部創立100周年の工学フォーラムと記念式典を、12月には神戸大学創立120周年記念式典をそれぞれ対面形式で開催することができました。各記念事業へご協力ならびにご支援をいただき、誠にありがとうございました。

教育に関しては、今年度も「プロジェクト・マネジメント」、「公共施設工学」等の科目を暁木会の皆様の全面的なご協力のもと開講致しました。対面授業を基本としながら、海外からの講師にはオンライン講義を行なって頂くなど工夫を凝らし、とても内容の濃い科目となっています。学生にとっては、将来のキャリアについて考えるにあたり、現場の方々の生の声を伺える大変貴重な機会となっています。また、学部3年生のインターンシップ（学外実習）も再開し、39名の学生が土木工学関連の官公庁や民間企業を受入機関として実習を行いました。受入にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

毎年頂いている助成金も有効に活用しています。今年度は、中小規模の居室の間の壁を撤去し、大部屋の研究室として整備する工事を実施しました。これにより、スペースの有効活用に加え、共同で利用する複数の研究グループ間の交流が図られるなど、学生の研究環境が大きく向上しました。

定例の暁木会と教室との意見交換会も3年ぶりに再開され、通常通りに年3回（7月14日(木)、10月13日(木)、1月12日(木)）開催することができました。長年の懸案である会費会員増強等の課題を改めて整理した上で、建設的に議論を重ね、実行可能な対策を着実に進めていく方針となりました。具体的には、学部3年生を対象として令和5年度に実施する「夏季インターンシップに向けた業界説明会」において、暁木会の若手会員の皆様と学生との座談会など、現役学生にとって暁木会をより身近に感じられるような企画を考えています。

最後に教室の教員体制について報告させていただきます。市民工学専攻の教員組織は人間安全工学講座、環境共生工学講座の2講座体制で、各講座に6教育分野が設けられています。令和5年度の専攻長・学科長は竹山智英教授、教学委員は齋藤雅彦准教授です。現在のM1学生と学部3年生の就職担当は芥川真一教授、その次の年度の就職担当は織田澤が担当する予定です。表1に令和5年1月時点の教員体制を示しますが、人事異動としては、令和4年10月1日付で橘伸也准教授が人間安全工学講座地盤安全工学研究分野教授に昇任されました。また、先の工学研究科長選挙にて小池淳司教授の再選が決定し、次年度も工学研究科長・学部長として留任されることになっています。以上のように、暁

木会の会員の皆様方からの多大なるご支援に基づいて、市民工学専攻・市民工学科の教育研究活動と教室運営を着実に進めることができました。教室を代表して、重ねて御礼申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

表 1 教員体制（令和 5 年 1 月時点）

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	芥川真一	三木朋広	
	地盤安全工学	橘 伸也		片岡沙都紀
	交通システム工学	織田澤利守	瀬谷 創	
	地盤防災工学	竹山智英		
	地震減災工学	長尾 毅*	楢田泰子	
	流域防災工学		小林健一郎*	
環境共生工学	環境流体工学	内山雄介	齋藤雅彦	
	水圏環境工学	中山恵介		
	地圏環境工学	大石 哲* 梶川義幸*（特命）	加藤正司	
	広域環境工学	飯塚 敦*	銭谷誠司*	
	都市安全工学	森川英典	橋本国太郎	
	都市経営工学	小池淳司 （研究科長）	瀬木俊輔 鶴田宏樹** 祇園景子**	

無印：主配置は工学研究科市民工学専攻

*：主配置は都市安全研究センター

**：主配置はバリュースクール（V. School）

就職状況の報告

令和4年度卒業・修了生就職支援担当 教授 森川英典

学生の就職活動に対して多大なるご支援ならびにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
 下表は、令和5年1月時点における就職内定・進学予定状況のまとめです。昨年度に引き
 続き、コロナ禍での就職活動に制限を受けながらも、皆様方のご尽力のお陰で、概ね例年
 通りの就職内定状況となりました。一方、この2年間のコロナ禍での就職活動を通して、
 就職先に関する情報収集や就職活動の方法も多様化しています。その反面、必要な情報が
 十分に学生に伝達されているとは言い難い状況にもあります。これまで熱心にお声がけ頂
 きながらご縁の薄かった企業様におかれましては、なお一層積極的にアピールして頂けれ
 ば幸甚です。令和6年4月に就職を目指す学生に対しては芥川真一教授が窓口となりま
 す。今後とも引き続きご支援ならびにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

業 種	学部卒業者		大学院博士前期課程修了者	
	人 数	就職内定先・進学予定先	人 数	就職内定先・進学予定先
国家公務員	1	国土交通省近畿地方整備局	0	
地方公務員	5	神戸市（2名）、大阪市、西宮市、 岡山県	2	兵庫県（2名）
鉄道	4	西日本旅客鉄道㈱（2名）、 阪急阪神ホールディングス㈱、 大阪市高速電気軌道㈱	4	大阪市高速電気軌道㈱（2名）、 近畿日本鉄道㈱、 阪急阪神ホールディングス㈱
道路	4	中日本高速道路㈱、 西日本高速道路㈱（2名）、 阪神高速道路㈱	4	首都高速道路㈱、阪神高速道路㈱、 阪神高速技術㈱、中日本ハイウェイエ ン지니어リング東京㈱
総合建設業	6	大成建設㈱、㈱大林組、㈱奥村組、 大鉄工業㈱、昭和コンクリート工 業㈱、スナダ建設㈱	2	清水建設㈱、西松建設㈱
建設コンサルタント	3	㈱ニュージェック、日本振興㈱、 ㈱オリエンタルコンサルタンツグ ローバル	7	㈱ニュージェック、日本工営㈱、 ㈱オリエンタルコンサルタンツ、 ㈱建設技術研究所、パシフィックコン サルタンツ㈱、協和設計㈱、ジェイア ール西日本コンサルタンツ㈱
鉄鋼、橋梁、プラント、建材	2	㈱横河 NS エンジニアリング、 ケイミュー㈱	1	㈱クボタケミックス
エネルギー	0		7	関西電力㈱（4名）、大阪ガス㈱（2名） 東邦ガス㈱
通信	0		2	㈱NTT ドコモ（2名）
IT、メディア	1	㈱NTT データ	2	アイテック阪急阪神㈱、w2solution㈱
住宅、不動産、商社、 金融、その他	6	日立建機㈱、㈱三井住友銀行、 oVice㈱、㈱room6、 Boston Consulting Group、 西海香美堂書画保存修復所	11	NTT 都市開発㈱（2名）、 伊藤忠都市開発㈱、 関電不動産開発㈱、 ダイビル㈱、㈱朝日ビルディング、 三菱地所・サイモン㈱、 ㈱リクルート、楽天グループ㈱、 PWC コンサルティング合同会社、 ㈱富士通ゼネラル
進学	39	神戸大学（32名）、 京都大学（3名）、大阪大学（2名）、 名古屋大学、東京工業大学	2	神戸大学（2名）
その他	2	卒業見送り（2名）	1	未定（1名）
合計	73 名		45 名	

研究報告

「加国ダール教授との埋設管の地盤摩擦力に関する国際共同研究」

准教授 鋤田泰子

本稿では、昨秋に神戸大学に来られたカナダの Memorial University of Newfoundland、Ashutosh Dhar（アシュトシュ・ダール）教授との共同研究について報告する。

私は、地震工学を専門として、埋設管の耐震性に関して実験や解析をこれまで研究活動としてきた。埋設管のような線状地中構造物の地震時挙動は、管周辺の地盤変位に支配されるため、耐震設計では応答変位法が広く用いられてきた。地盤変位を外力として与え、地盤ばねを介してその外力を地中構造物に伝える手法である。こうした計算方法では、地盤ばね特性の設定によって構造物の応答が変わるため、地盤ばね特性を実験的・解析的に評価することが重要になる。2015年頃の数年間、京都大学防災研究所の澤田純男教授との共同研究で管路に作用する地盤摩擦力の速度依存性を評価するため、東日本大震災後に神戸大学工学部の構造実験室横に導入された水平一軸の振動台を用いて実験をしていた。今回のダール教授との共同研究は、この澤田教授との共同研究に端を発するものである。

ダール教授は、カナダの大学で地盤工学を専門とする研究者である。彼は米国で学位を取得する前に日本の大学で留学生として研究していたことがある。研究室の学生らは、供述の片言の日本語と上手な箸使いにすぐに親近感を持った。カナダでは、埋設管に作用する地盤摩擦力や地盤反力に関する企業との研究プロジェクトが複数あり、彼の大学では大型土槽での埋設管の静的載荷実験や有限要素法での解析を実施している。日本ではこの種のテーマでの企業との大型共同研究が減っていることから、羨ましい限りである。また、澤田教授とダール教授が旧知の仲であったことからダール教授が昨年9月に来日し、国際共同研究がスタートした。

地震時の埋設管の挙動は動的なものであるため、日本国内では速度依存性を考慮した動的載荷実験事例がいくつかある。その一つが前述したものである。一方で、地盤摩擦力の実験は静的載荷で実施されるものが多い。ただし、同一条件で動的実験と静的実験による摩擦力の違いを比較した研究はほとんどない。神戸大の土槽はカナダの大型土槽よりも小さい（内径：長さ1.6m、高さ1m、奥行0.8m）が、同一土槽で教授の滞在期間中に動的載荷試験（振動台を利用したもの）と静的載荷試験（油圧ジャッキによる載荷）を実施することができた。小型土槽とはいえ、土槽内に砂を入れて締め固めるためには労力が必要になる。研究室の学生総動員で実験手伝いをお願いし、カナダの博士課程の学生も来日し実験に加わった。私の研究室にも留学生がいるので、実験室では日本語や英語がごちゃ混ぜになりながら、供試体を作製しては載荷の繰り返しであった。実験の最後の方には、皆要領を得て、自然と実験の役割分担ができ、実験が手順良く進むようになった。また、研究室のゼミに教授らも参加してもらった。カナダ式の会議形式（ランチを食べながら、順々に学生が発表していく）を教授に提案してもらい、コロナ禍ではあるが、黙食、マスク発言で、研究室の学生も体験した。

振り返ってみれば、実験期間中はお祭り騒ぎのようでもあったが、実験やその後のディ

スカッションを学生も交えて色々な考え方を議論でき、収穫多い共同研究であった。これらの実験結果は、日本とカナダのそれぞれ学会で報告していく予定である。

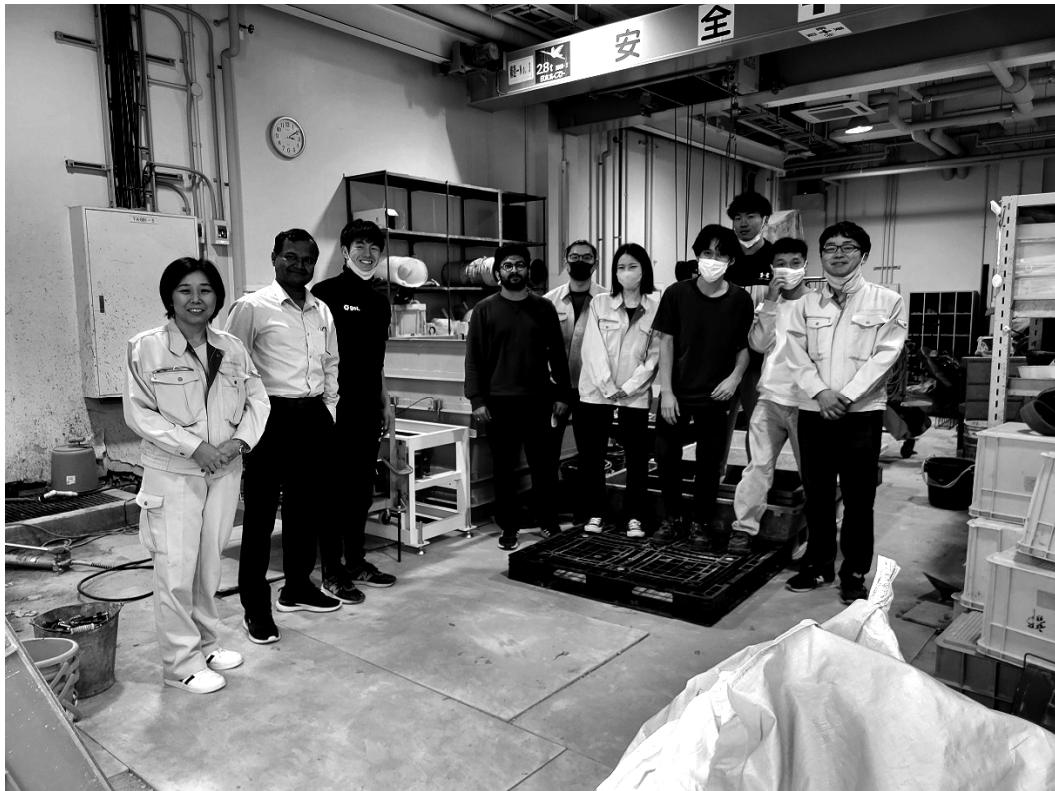


写真 実験時の集合写真（左端より楢田、ダール教授）

大学生活の思い出

学部 4 回生 山崎太喜(瀬木研究室)

入学式に参加したのがつい最近のことと思えるほど、神戸大学での 4 年間はあっという間でした。4 年間で印象に残っていることを 1 年生の時の話から順に書き記したいと思います。

私は入学後、バレーボールとジャグリングのサークルに入りました。ジャグリングサークルの活動に関しては、1 年のときの六甲祭がサークル外の人に見てもらった初めての機会に緊張したのを覚えています。ジャグリングの構成を考えることや、グループでのジャグリングパフォーマンスの練習には苦労しましたが、優しい先輩や同期からアドバイスや応援をもらい、本番までに完成させることができました。人前で何かを行うことや仲間と協力して一つのものを作りあげたことは、とても良い経験になったと感じています。



六甲祭でのパフォーマンス

2 年生に入るとコロナウイルスによる感染症が流行し、2、3 年生のときは基本的にオンライン授業となりました。そのため、市民工学科での実習や実験、サークルでのイベントなど、本来体験できるはずであったことが無くなってしまったことには悲しく感じました。しかしながら、3 年生の夏に行われた市民工学科の学外実習での 1 週間インターンシップでは、多くの企業がコロナウイルスにより受け入れを取り止めている中、私の希望先のゼネコンの企業様は受け入れて頂きました。インターンシップでは、現場の進捗管理や品質管理作業などの様々な業務を経験させて頂き、仕事のやりがいや大変さなど多くのことを学びました。このインターンシップでは大学院進学後にも繋がる大変有意義な時間を過ごすことができたと感じています。私を受け入れてくださった企業様には厚くお礼申し上げます。

4年生になると研究室配属が行われ、瀬木研究室に所属することになりました。研究室では私の興味のあるテーマを研究することができ、とても満足しています。また、研究室の好きな点が、研究室としては贅沢すぎる景色です。作業で疲れた時にふと窓の方を見ると絶景が広がっており、リフレッシュできたことが非常に印象に残っています。

コロナウイルスによりできないこともありましたが、今後の人生にとって必要な多くのことが経験できた貴重な4年間でした。私を支えてくださった先生方や、サークル・研究室の先輩、同期、後輩に感謝申し上げます。ありがとうございました。



研究室からの景色

大学生活の思い出

修士2年生 足立 理子（織田澤研究室）

この6年間を通じて、素敵な方々にたくさん出会い、非常に充実した学生生活を送ることができました。神戸大学に入学して本当に良かったと何度も思います。

大学1年から3年まで所属していた英語研究部（ESS部）では、英語スピーチの活動に勤しんでいました。高校まで人前で話すことが苦手であった私にとって、スピーチというのは大きな挑戦でした。自分の考えをいかに面白く、わかりやすく伝えるかを考える必要があり、日々試行錯誤を繰り返していました。なかなか思うようにいかず辛く感じることもありましたが、今振り返れば大きな成長につながった経験だと感じています。部活の同期全員で合宿を創り上げたことも一生の宝物です。合宿を通じて、周囲と協力して1つのものを創り上げることの楽しさに気がつくことができました。部活以外にも、ビジネスコンテストや食育事業、短期留学など様々なことに挑んだ学生生活でした。社会に出てからも「まずはチャレンジしてみる」というマインドは大切にしていきたいです。

研究室に配属されてから、私の大学生活はさらに充実しました。当初は周囲の方々のレベルが高く、何とか付いていくことで精一杯でした。そのような中でも挫けずに乗り越えられたのは、先生方や研究室のメンバーからの手厚いサポートや助言があったためです。研究生活を通じて、土木についての知識や研究への向き合い方、発表資料の作成方法など数多くのことを学ぶことができました。また、学会の出場や英語論文の執筆など、大変貴重な経験をさせていただけたと思っています。研究活動に加えて、研究室での雑談や飲み会、旅行なども私にとって最高の思い出です。個性豊かな同期や後輩、先輩に恵まれて毎日が楽しく、研究室はまるで実家のような場所でした。この研究室が本当に大好きで、卒業することがとても寂しいです。OGとして顔を出せたらなと思います。

これほどまでに充実した学生生活を送ることができたのは、様々な場面で関わってくださった皆様方のおかげです。深く感謝申し上げます。今後の社会人生活でも日々困難が立ちますが、それを乗り越えながら大きな人間に成長して、恩返ししていきたいです。本当にありがとうございました。



学会先の沖縄にて

現役最前線

人とのつながりで取り組む街づくり ～土木公務員としての私の歩み～

姫路市 建設局 道路管理部 道路保全課 北村 暢慶 C02

1. はじめに

私は 2002 年に神戸大学を卒業後、3 年を経て、姫路市役所に入庁しました。世界遺産である国宝、姫路城をはじめとした観光資源を活かし、国際交流拠点都市を目指す姫路市に当時から興味を持っていましたが、姫路に縁もゆかりもなかった私がまさか採用されるとは…。この適度に街で田舎な姫路市で、恩返しも兼ね日々を務めています。本稿では、入庁後の私の遍歴や、姫路市の最近のトピックスなどをご紹介します。



2. 12 年間の足跡（経験による学び）

私が入庁した 2005 年当時、姫路市は大事業「姫路駅周辺の鉄道高架化事業」の最盛期でした。翌 2006 年には鉄道の高架化に伴い駅西側の跨線橋「大將軍橋」の橋梁が、巨大クレーンにより一夜にして撤去されました。姫路市の土木屋はみな集まり、夜通し見学し、歓声を上げたものでした。



大將軍橋 橋梁の撤去

一方の私が最初に配属された河川整備課には護岸を新設する大事業もありましたが、私の担当は主に、近隣の排水や農業用水を担う「青線」と呼ばれる小さな水路の管理、改修でした。また、次の配属先、道路建設課での担当は用地の寄付を伴う生活道路の拡幅事業であり、どちらも工事の規模は小さなものでした。ただし、小規模な工事だと侮れない。大切な家や土地の買収、移転に関する交渉もあり、生活と密着しているだけに近隣の皆さんの要望や苦情にも熱が入ります。最初は戸惑いました。「水口、落とし口、分かるケ?」「何しとんどイ!」「どい…?」。おかげさまで農業用語の理解も進み、悪気は無くともきつく感じる播州弁にも慣れることができました。また、設計、施工の際に関係者の話を傾聴し情報を集めること、粘り強く解りやすく説明することがいかに重要か、身をもって学ぶ経験となりました。

9 年目から配属された下水道整備室では、港湾区域内で推進工法による管工事を担当する機会を得ました。港湾管理者の護岸改修に伴い支障となる下水道幹線を移設する事業です。地下水位や土質から泥濃式推進工法による管設置を選択したのですが、河川区域内での限られた工期の中、近接する漁港の関係者への説明会や水質のモニタリング、港湾管理者との協議もあり、竣工まで気の抜けない工事となりました。途中支障物で先導体が止ま

った際には終わったか…と思いましたが、何とか工事完了を迎え、その後の自信にもつながりました。また、苦労したぶん学ぶことが多く、土木施工管理技士の論文試験の際にも大いにこの経験が役立ちました。

3. 道路管理者としての業務（計画的な維持管理）

2017 年に現所属である道路保全課に配属され、6 年目になります。主な担当は姫路市道の維持、安全管理です。通報などにより道路の破損が見つかるとうすぐ現場に向かい、事故の危険などがあれば常温合材や土嚢を用いて、その場で応急処置を行います。

近年では交通インフラにも老朽化が進み、姫路市の道路管理部局でも既存ストックの計画的な修繕、長寿命化が急がれています。地中レーダー探査や FWD 調査車を用いた路面下空洞調査、路面性状調査により、市内の主要道路について優先順位を決定し、長期の舗装修繕計画を作成、修繕工事を実施していますし、ドローンによる空撮を用いて橋梁等の主要構造物の点検、補修も進めています。また、今年には姫路市では初めて、既設舗装版を路盤材料として再利用する「路上路盤再生工法」による舗装改良が施工されました。新設から維持管理の時代へ、非破壊調査などによる計画的なインフラの長寿命化マネジメント、環境負荷やコストを抑えた効率的な維持管理の実施が道路管理者に求められる今後の課題、業務の中心になってきています。



常温合材による陥没補修（私）



ディストリビュータでの路上路盤再生

4. 姫路市の土木、最近の話題

姫路市の玄関口、姫路駅は現在、北の目抜き通り「大手前通り」が歩行者を主役とした空間に生まれ変わり、西の総合医療センター、南のロータリー広場の整備が完了し、高架化、再整備の大事業がいよいよ完成間近となっています。大手前通りにおいては、柔軟な占用許可により民間事業者の歩道利用の活性化を促す「ほこみち制度」を全国で



歩行者空間が広がる大手前通り

初めて導入するなど、官民連携した有効利用、街の活性化を図っています。また、これに続く大事業として、姫路博覧会のシンボルであった手柄山中央公園の再整備事業が始まりました。今後、JR 新駅の整備をはじめ、体育館、プールなど複数のスポーツ施設の整備やアクセス道路、歩行者の導線をつなぐ連絡歩道橋網の整備などが大規模に実施されていきます。市の活性化に向けたこれらの取り組み、市の変革にぜひ注目いただければと思います。

5. おわりに

道路保全課の若手職員、丸田君を紹介します。彼は大学時代にインターンとして道路保全課で1週間を過ごし、便箋2枚におよぶ礼状をしたため、採用を勝ち取ったやり手で、私達は彼を「鮭」（生まれた川に遡上したため）と呼び重宝しています。市民工学科の皆さんにも是非、インターン制度を利用し、私たちの職場を見ていただけたら、そして共に働くことが出来たらうれしい限りです。



頼れる「鮭」丸田君

華々しい現場ばかりではありませんが、人知れず人の生活を支える

縁の下の力持ち、これも土木の醍醐味の一つです。地域の皆さんから意見を集約し、コンサルさんと設計を練りあげ、工事業者さんと現場を進める…。たくさんの人たちのつながりの中でインフラは作られ、守られます。私たち土木公務員はその橋渡しをする良きコーディネーターでありたい。暁木会の皆様、市民工学科の皆様とこれからどんな場面であつたり出会えるか…楽しみにしております。最後になりましたが、皆様の益々のご発展、ご活躍を祈念しております。

岡山県支部総会報告

1. 日 時 令和4年10月22日（土）
2. 会 場 ピュアリティまきび
3. 出席者 来賓：織田澤利守教授、古川雅一本部副会長、支部会員 16名

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年度、3年度と書面開催が続いていましたが、今年度は大学より織田澤先生、本部より古川副会長をお迎えし、3年ぶりに対面で支部総会を開催しました。

総会では、西本支部長の挨拶に続き、織田澤先生から大学の近況等を含めたご挨拶をいただいた後、先生の研究内容についてご紹介をいただきました。引き続き古川副会長から本部の活動状況などを織り交ぜたご挨拶をいただきました。

その後、支部役員の改選が行われ、西本支部長、桐野副支部長が共に留任で選出、会計報告も承認され、総会を滞りなく終えました。

総会後は、西垣顧問の乾杯の発声により懇親会を開始しました。3年ぶりの開催ということもあり、お酒や料理が進むにしたがって歓談の輪が広がり、例年以上に盛り上がりました。盛況の中、最後は、桐野副支部長の一丁締めで、懇親会を終了しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年と比較して参加者数が少なめでしたが、今後も支部長、副支部長のもと、岡山県支部においてもいっそう暁木会の活動の輪を拡げていきたいと考えています。

報告者 岡山県支部事務局 岡山県土木部道路整備課 熊城 秀輔（C03）



支部の取組み

暁木会では全国に4つの支部があり、各支部で各種取組を行っています。是非、異動などの際には、お近くの支部にお声掛けください。総会等の行事予定のご連絡を差し上げます。暁木会支部のページ (<http://www.gyoubokukai.jp/shibu/shibu.html>) もご参照ください。

支部名	会員数	支部長	事務局（問い合わせ先）	総会予定
東京	870	田中俊行 ^{③⑦}	塚本 琢治 ^{③⑧} (株)不動テトラ TEL 03-5644-8531) E-mail : takuji.tsukamoto@fudotetra.co.jp	6 月
東海	65	山縣正明 ^{④⑩}	竹本 正和 C03 (東邦ガス(株) TEL 052-872-9240) E-mail : m_take@tohogas.co.jp	10 月
岡山	45	西本 靖 ^{②⑨}	熊城 秀輔 C03 (岡山県土木部道路整備課 TEL 086-226-7473) E-mail : shiyuusuke_kumashiro@pref.okayama.lg.jp	10 月
広島	77	小田秀樹 ^{②⑥}	木村 裕行 C08(復建調査設計(株) TEL 082-506-1862) E-mail : h-kimura@fukken.co.jp	7 月

暁木一水会令和4年度活動報告&令和5年度活動予定

【令和4年度の暁木一水会の活動報告】

回	開催日	内容、講師	摘 要
161	R4.5.11	【講演会】 兵庫県、神戸市等の主要施策	新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い中止
162	R4.8.3	【講演会】 「将棋の師弟関係 (藤井聡太の凄さとは)」	井上 慶太氏 (将棋棋士九段、日本将棋連盟常務理事)
163	R4.11.2	【見学会】大阪湾岸道路西伸部（長田区駒栄地区）	
164	R5.2.1	【講演会】 「神戸大学での18年間の 研究生活を振り返って」	一般財団法人 建設工学研究所 神戸大学名誉教授 澁谷 啓氏

【令和5年度の暁木一水会の活動予定】

回	開催日	内 容	講 師
165	R5.5.10	【講演会】	兵庫県、神戸市等の職員
166	R5.8.2	【講演会】	一般の講師
167	R5.11.1	【見学会】	
168	R6.2.7	【講演会】	母校の先生

場 所 楠公会館（湊川神社内）住所：神戸市中央区多聞通 3-1-1 電話：078-371-0005
 会 費 4 千円
 連絡先 代表世話人 井澤 元博^{②③}
 暁木一水会連絡調整役 北田 敬広 C98（神戸市役所）TEL：090-9888-0065

暁木会年会費納入のお願い

暁木会は、母校の発展、学術研鑽並びに同窓生相互の親睦のための活動を進めています。令和5年3月末時点で約1,200名の会員各位にご理解とご協力をいただき、会員名簿や暁木会ニュースの発行、総会等の行事、市民工学教室への援助などの事業を実施しています。会員の皆様には、暁木会の活動にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

しかしながら、まだまだ新規加入会員数は十分ではない状況です。

つきましては、大変恐縮ではございますが、会費納入の手続きが未了の会員各位には、会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

なお、暁木会ではホームページ (<http://www.gyoubokukai.jp>) において、卒業生の様々な情報、各支部の活動情報等を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

年会費額、支払い方法等は以下のとおりです。

1. 年会費額 ￥3,000円

※年会費納入の登録をいただいた会員には、暁木会会員名簿（2年ごとに発行）を送付させていただきます。

2. 年会費の支払い・登録方法

ご指定の金融機関から、年1回「自動引落とし」させていただきます。

「預金口座振替登録書（集金代行）」に必要事項をご記入いただき、返信用封筒にてご返送ください。集金代行機関として三菱UFJニコス株式会社に、金融機関からの集金を委託しております。

会費納入の手続きが未了の会員各位には、info@gyoubokukai.jp 宛に氏名、連絡先を記載の上メールしていただきますようよろしくお願いいたします。「預金口座振替登録書（集金代行）」と「返信用封筒」を郵送させていただきます。

なお、登録解除・登録金融機関等の変更などについては、暁木会事務局 info@gyoubokukai.jp 宛に、変更する項目の情報をご連絡ください。

3. 年会費集金の時期

毎年10月下旬頃の予定です。

暁木会令和4年度総会のご案内

令和4年度総会を下記のとおり開催いたします。(詳細は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、幹事会の後、決定いたします。詳細につきましては、暁木会ホームページにてお知らせします。)

■日 時 令和5年3月24日(金) 午後6時～午後7時20分

■場 所 湊川神社 楠公会館

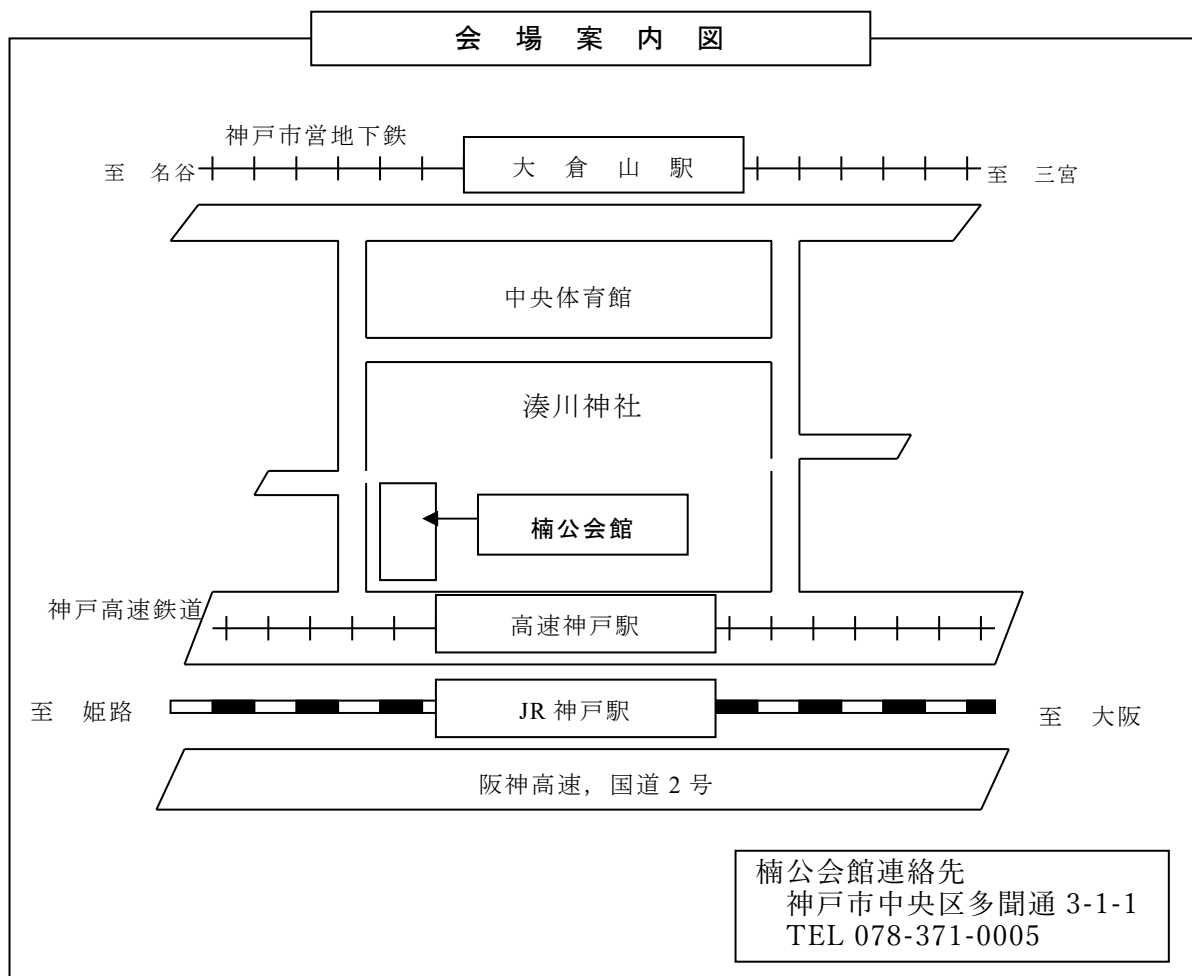
(最寄駅は、JR 神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅)

■連絡先 暁木会 常任幹事 上田 直樹 C98

TEL : 090-4284-0156

Email : info@gyoubokukai.jp

Web : http://www.gyoubokukai.jp



令和4年度の名簿発行について

今年度は、2年に1回の名簿の改定版を発行する年となっており、会員の皆様には改定名簿とNo.43号の暁木会ニュースを令和4年12月にお届けしております。改定にあたり、誤記あるいは未更新等不十分な点も多々あることかと思いますが、ご容赦をお願いします。

主な登録内容：①勤務先名称 ②勤務先所属部署名 ③勤務先役職名 ④勤務先郵便番号
⑤勤務先住所 ⑥勤務先 TEL ⑦勤務先 FAX ⑧勤務先 E-mail
⑨現住所郵便番号 ⑩現住所 ⑪現住所 TEL ⑫現住所 E-mail

なお、前項にも触れましたが名簿は会費会員にのみ送付しております。この機会に会費のお支払いを是非ご検討いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひその様子を寄稿下さい。その他、ご意見ご要望等ございましたら、下記連絡先までよろしくお願い申し上げます。

発行者：暁木会

E-mail：info@gyoubokukai.jp

連絡先：常任幹事 広報担当 溝口 俊介 C99

株式会社大林組

TEL：06-6485-5685 FAX：06-6485-5688

E-mail：mizoguchi.shunsuke@obayashi.co.jp